

## 今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇塩ビ国際会議「PVC2024」 エジンバラにて開催

■ [随想](#)

◇知ってそうで知らないシロアリの話 ⑮

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

■ [トピックス](#)

◇塩ビ国際会議「PVC2024」 エジンバラにて開催

3年に1度英国で開催されるPVC業界の国際会議「PVC2024」がエジンバラにて対面で行われました（2024年4月15～18日（現地時間）。15日は夕刻よりパブにて歓迎レセプション）。前回の会議がコロナ禍中で1年延期され、さらにオンライン形式での開催でしたので、対面での会議は実に7年ぶりとなりました。また、これまで英国ブライトンで開催されていましたが、今回はエジンバラに場所を移しEICC（エジンバラ国際会議場）を貸し切って行われました。4月中旬にもかかわらず日中4℃程度の寒い気候の中、コロナ禍終焉後初めてPVC業界関係者が一堂に会する最大規模の国際会議であるということもあってか会場は熱気に包まれていて、再会を喜び談笑する人々がそこかしこにいました。



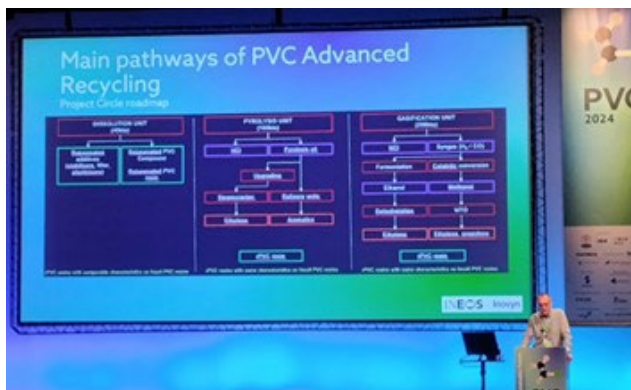
今回の会議参加登録者は436人でしたが、会議に参加せずに特設ブースで各社・団体の広報活動を行っている方もいらっしゃいましたので総勢は500名程度だったのではないかと思います。大半がヨーロッパの塩ビ関係企業からで米国含めその他の国からの参加は各数人といった感じでした。日本人も10名程度参加していましたが、そのほとんどが日本企業の海外（欧州が中心ですがアジアからも）子会社出向の方々でした。

プレゼンテーションは全体で77件。初日（4月16日）は14件の全体講演及びパネルディスカッション（欧州プラスチック産業ロードマップ、国連プラスチック条約、プラスチック・PVC産業の今後の方向性、南ア・南米・北米・中国におけるPVC展望など）。2日目（4月17日）・3日目（4月18日）は3つの会議室に分かれて15分毎の

テーマ別講演、計 63 件が行われました。テーマは次の 9 項目でした。

- ① 添加剤（改質、難燃性、安定性、着色性、耐候性の進歩） 11 件
- ② リーン生産方式、インダストリー4.0、機械・加工技術 7 件
- ③ 市場、製品、用途 - PVC によるイノベーション 5 件
- ④ ネット・ゼロ・カーボン 2 件
- ⑤ 熱硬化性と軟質 PVC 6 件
- ⑥ 重合、樹脂開発と生産 5 件
- ⑦ 規制と環境問題 10 件
- ⑧ 戦略・方向性とグローバル市場 6 件
- ⑨ 循環経済 11 件

筆者は⑦と⑨のテーマの講演に参加していましたが、⑨では最も喫緊かつ重要な課題は循環経済社会の構築であり、その鍵を握るのはリサイクル。マテリアルリサイクルのみならずケミカルリサイクルができる体制をつくっていくことが必要であると強調されていました。⑦では講演者から異口同音に ECHA（欧州化学品庁）の科学的知見に基づかない規制の動きに懸念が示され、それを正すために PVC 業界からの確かな情報提供や意見具申を行っていくことが必要であり業界としてそのような活動を積極的に行っている旨の発言が相次ぎました。



個人的に最も感銘を受けたのは SAVA（南アフリカ塩ビ協会）の講演でした。南アにおける 2020 年の PVC 需要は約 14 万トンだったがその内リサイクル PVC は 2.1 万トン。使い古されたサッカーシューズからリサイクル品である新しいサッカーシューズの写真を示しつつ、南アにおけるリサイクル PVC の最大市場（40%）は、靴、靴底、ゴム長靴の製造に使用される履物産業である（建築・建設業（38%）、農業（12%）がそれに続く）との説明があった時でした。用途別リサイクルの取り組みについては、欧州における塩ビ薬剤パックのリサイクルの講演などもありましたが、まだまだいろいろな分野でのリサイクル市場があり、その需要を満たすためにも回収、分別、リサイクル品の開発・製造・販売の仕組みづくりが大切であると痛感しました。

特設ブースでは 35 の企業・団体が資料提供を行っていました。日系企業としてはクラレ欧州社がコーヒー配膳コーナーの手前にある角地の目立つところにブースを構え、訪問する人々に熱心に説明していました。

テーマ別の件数でもわかるとおり、今回の PVC2024 は添加剤、循環経済、規制と環境問題に最も力をいれていたと思います。PVC 業界が一致団結して PVC リサイクルを推進して循環経済社会の構築に貢献していこうという気概と、規制当局に対しては科学的知見に基づいてしっかりと議論して正すべきところは正していこうという姿勢が感じられました。

最後に 3 年後の PVC2027 もエジンバラにて開催されることが事務局より告知され、PVC2024 は大盛況のうちに閉幕しました。

## ■ 随想

### ◇知ってそうで知らないシロアリの話 ⑮

株式会社テオリアハウスクリニック 平 一暁

シロアリごときを駆除するのに、資格なんて必要なの…？（笑）なんて、よくお客様から聞かれます。だったら蚊でもハエでも、ゴキブリだって、駆除するなら資格があってもいいんじゃない？様々なご意見もあるかと思いますが、シロアリ防除の業界には、ちゃんと資格や協会もあるので、というお話です。

高度経済成長の真っ只中（1955年頃～1973年頃）では、今とは真逆でとにかく日本の人口は増えていた時代。人が増えれば、住む所も足りない。需要に応じて矢継ぎ早に短時間でとにかく住宅を建てていると、当然その中にはレベルが劣悪な住宅もある訳です。シロアリの予防対策も当時はまったく行われていませんでしたから、被害も出るし、羽アリも飛ぶし…（笑） そんな家が普通に立ち並んでいたのも、当時はシロアリ駆除施工の訪問販売も成り立ったのです。「エッ、去年羽アリが飛んで床板がフカフカしているって？どれ、じゃあ床下を見てみましょう。」当時は突然訪問しても、こんな会話が普通に成り立ったんですよ。

ただ住宅の質が上がり、新築時にシロアリの予防施工が処理されるようになると、少なくとも薬剤の効力のある間は被害は出ない。訪問しても被害のあるお宅の確率が減る。よって嘘偽りを語ったり、ご高齢の方を集中的に狙って高額な施工を売りつけるようになる。社会問題にもなりましたよね。弊社は訪問販売は一切行った事はありませんが、シロアリ業者と言っただけでダーティーに見られていたのはこんな歴史も少なからず影響していました。

日本で唯一のシロアリ防除業者の公益社団法人、日本しろあり対策協会は50年以上の歴史があります。ちょうどこの高度経済成長の終焉と入れ替わるように設立されまし



た。悪質な訪販をやっていた会社は、元々シロアリ防除をやっていた会社ではなくて異業種からの転業系が多かったそうです。「シロアリがそろそろ下火になってきたから、次は羽毛布団だ！」みたいな感じで…。自分たちの立場やお客様の安全を守るためにも、協会設立は必要だったのでしょね。

私たちは略して白対協（はくたいきょう）と呼んでいます。大きな役割のひとつに「登録施工業者会員」の認定というのがあります。他のエリアの方から安心できるシロアリ駆除の会社か否かを聞かれると、まずは「白対協の会員かどうか確認してみてください。」と答えます。白対協に入会できるかどうかはまずは大きな目安になっています。あとは「防除薬剤等」の認定と「防除施工標準仕様書」を定めるなどが大きな役割ですね。

それと資格です。白対協では「しろあり防除施工士」という資格を認定しています。もちろん私も持っています（笑）。私は20年前に取りました。当時の1次試験は、木材、シロアリの生態と被害、腐朽、防蟻防腐薬剤、建築物の知識、防除処理の6項目（現在は木材と腐朽が一緒になって5項目）でそれぞれ8割以上、更に2次試験で合格点を取って、試験・講習含め1年がかりで取得するんですよ。更にこの上に「蟻害・腐朽検査士」という資格もあって、前者は3年、後者は5年ごとに更新をしないといけないので、大変ですヨ（汗）。ただ、こんな資格を持った者が点検や施工に来てくれたらお客様も安心ですよ。こちらとしても差別化が図れます。どうしてこの薬剤を散布するのか、なぜ施工後も安心して暮らせるのかなど、理由を理解して対応しているかどうかで、やっぱり大切ですよネ。



しろあり防除施工士証



蟻害・腐朽検査士証

ただこの「しろあり防除施工士」に気がかりな事が…。20年前に取得した私の登録番号は10000番代。今年取得した社員の登録番号は、16000番代。20年で6000人しか増えていないのですよ。また資格取得者はのべ16000人いるといっても、既に引退や退職、転職、逝去された方や、資格は持っていても点検や施工の業務に従事していない人を除くと、実際に実務者として活躍しているのは6000～8000人ではないかと言われています。コレ、全国での人数ですからねえ…。ここにも人材不足、人材難の影が忍び寄っています。

これまではシロアリの防除施工も相見積もりで、より安い所に頼む傾向が強かったものの、近い将来、資格を持った施工者の取り合いになって値もつり上がっていくのではないかと私は見えています。どこの業界も似たようなモノですネ。これから高齢化社会でかかりつけのお医者さんがいるかどうかのカギだ、なんて言われますが、住宅も同じ。これからは新築住宅が減って築年数の経った住宅をいかに住み継いでいくかが重要になりますから、住宅のかかりつけ医をしっかりと見つけて確保しておく事が大事になってくると思いますヨ。

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---